



長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7994

Summer

Vol.

72

ART@CAMPUS

No.18



Title

人物素描

鴨川桃香さん
幼稚園教育コース 芸術的感性開発専攻 4年

彼女の柔らかな雰囲気の中にある、強さを出せるよう、
使用する鉛筆の濃さに気をつけて制作しました。

Choho

長崎大学広報誌 [チヨーホー]

Vol.72

2020年7月1日発行

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

見る・語る

大学生になって経験する「知の対話」。それはまさに未知の領域であり、胸が高まる、新たな学びとの出会いであります。今回の特集では、高校と大学での学びの違いをテーマに語る巻頭インタビュー、そして知の対話の実践例として科目をピックアップし、先生と学生に学びの内容、方法、醍醐味について話を聞きました。

※取材時期は、オンラインでの講義を行っていました。



学長室
だより

知の探究は面白い

皆さん、小中高校と大学では何が違うか、分かりますか。大学では高校よりも難しい勉強をするだけだと考えていませんか。実は、高校までの教育機関と大学は、全く異なる目的で設置されています。高校までは学習指導要領で定められた知識や技能を身に付けるところですが、大学は教育を「受ける」機関ではなく、教員も学生も一緒に新しい知を探求する機関です。絶対的な正解は存在しません。大学の教員は講義や実験などを通じて基礎的なことや専門分野のルールや考え方を学生に伝えますが、その後は学生自身が知と向き合い、対話し、そして新しい知を探求していくのです。

対話となれば受け身ではできません。授業を一方的に聴くのではなく、知的好奇心を基に、図書館で自ら文献や論文を探して読む、相手の意見を聞き、自分

の考えを伝えて議論する、大学を離れてより広い世界で自らの関心に基づき探究する、レポートや論文を書いて自ら発見した新しい知を伝える、といったすべてのことが必要になってきます。新しい知の探究は、時に大変で苦しいこともあります。しかし同時に、非常に知的で面白いものです。大学には、一人一人が思うように学ぶことできる自由があります。



長崎大学は毎年、新入生に「長大生のためのラーニングティップス」という冊子を配付し、初年次セミナーなどを通じて、まず「学び方の学び」を修得してもらっています。長崎大学の図書館やサポーターも、あなたの新しい学び方をサポートしてくれることでしょう。

怖がらず、在学中から広い世界に目を向け、知と対話し、新しい知を探求していただきたいと願っています。

河野 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョー豪ー]
Choho Vol.72

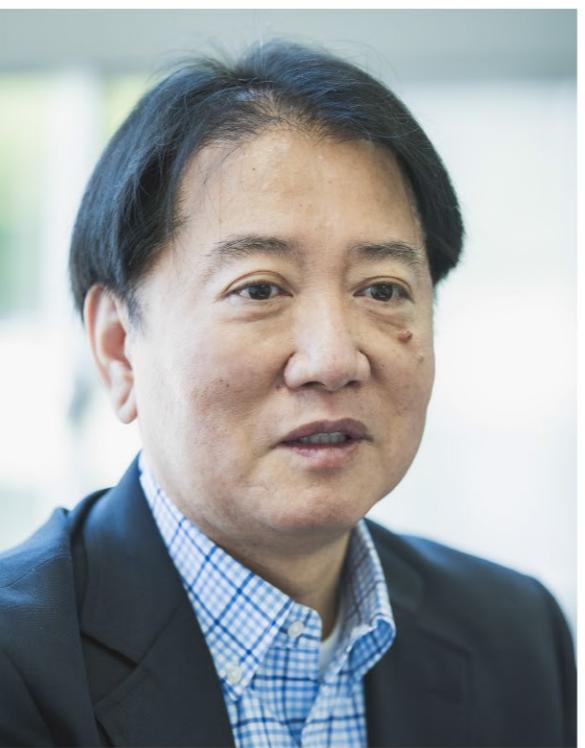
本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌 Choho vol.○から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。なお、『研究最前線』コーナーについては一切の引用および転載を禁止しております。

学長室だより	知の探究は面白い	1	表紙のはなし
特 集	長崎大学で学ぶ 知の対話	2	今回の撮影地は、長崎大学のメインキャンパスでもある文教キャンパスの正門前。長崎在住の高校生、受験生の皆さんには、おなじみの風景かもしれません。大学は新しい知を創造する場所です。門をくぐったその先に、どのような知の対話が待っているのでしょうか。
サークルの星!	ロケットサークル／Jackpot／長崎大学女子端艇部／長崎大学器械体操部	15	
卒業生に聞く	石丸徹郎さん	17	
研究最前線	五島列島に分布 一秒に一回点滅するゲンジボタルを発見 大庭伸也	19	
Information	バーチャル・オープンキャンパス クイズ&編集後記	21	

主体的な学びの先にある 新しい知の発見と創造

塚元和弘

理事(教学担当) 副学長



つかもと かずひろ
1987年長崎大学医学部医学科卒業。1993年同大学院医学研究科博士課程修了。博士(医学)。同大学病院研修医、米国ボストン大学先端バイオテクノロジーセンター研究員等を経て、再び長崎大学医学部職員として着任。2004年より同大学医歯薬学総合研究科・薬物治療学(薬学系)教授。2016年10月より入試担当副学長。2017年10月より教学担当理事・副学長。専門分野はゲノム医学、腫瘍学等。

正解がない学問を 深めるための三つの力

高校と大学の学びには大きな違いがあるといいますが、高校生の皆さんにはぴんとこないかもしれません。具体的に、学びはどのように変化するのでしょうか。塚元和弘理事(教学担当)に伺いました。

「そもそも大学は、知を創造する場所です。この点を踏まえて高校までの学問と対比した場合、大学の学問の領域は非常に深く、広い。そして自由とも言えるでしょう。強調したいのは、必ずしも正解があるとは限らないということです。私自身、高

りの人たちに認めてもらわなければ意味がありません。このように、新しい知を創造する上では、思考する力、証明する力、表現する力という三つの力を身に付ける必要があります」。

大学ではどのようなカリキュラムが用意されているのでしょうか。

「長崎大学の教育プログラムは教養教育と専門教育で構成され、一年次の初めに学部単位で初年次セミナーを実施します。内容は学部ごとに異なりますが、学生数人に対して一人の先生が付き、グループワークなどのアクティブラーニングを十五回にわたり行って行います。この時点で考え方を大きく切り替え、深めるための準備をします。他にも教養教育には、モジュール科目などが含まれます。一

方、専門教育には基礎と応用があり、その先に卒業研究があります」。

知的好奇心に基づいて 探究する醍醐味

「正解のある問題に慣れている学生たちにとって、大学で初めて出会う学びはとてもわくわくするものになります。ですが、最初からすんなり良いアイデアが出せるわけではなく、先生や同級生と議論を交わしながら試行錯誤を繰り返していくます。その過程では、挫折しそうになることもあります。もちろん、初めからすんなり良いアイデアが出せるわけではなく、

る能力や態度も身に付いていると認められたときに学位が与えられます。高校とは違い、大学では主体的かつ能動的に学ぶ姿勢が重要なのです。もちろん、初めからすんなり良いアイデアが出せるわけではなく、好奇心に基づいて探究してみたいと思うものを見つけておけば、苦しい時も乗り越えて最後までやり遂げる原動力になるからです」。

長崎大学では、初年次セミナーのほか、主体的な学びのコツを伝授する「長大生のためのラーニングティップス」の発行など、一年次から多様な問題や課題を前にした次から多様な問題や課題を前にした時には少し立ち止まり、自分自身の内面とじっくり対話し、やりたいことや夢をしっかりと認識してもらいたい。国内外のさまざまな人と出会ったり、議論したり、読書をしたりして、興味を持ったものには積極的に取り組んでみるのもいいです

ね。興味が赴くものを見つけ出す努力をしてほしいと思います。知的好奇心に基づいて探究してみたいと思うものを見つけておけば、苦しい時も乗り越えて最後までやり遂げる原動力になるからです」。

次ページから、大学の知を深めるための各学部の特徴的なプログラムを「読む・書く・見る・調べる、話す」といったキーワードを切り口に紹介します。

長大生のための ラーニングティップス

長崎大学に入学した1年生の皆さん、大学での学びを順調にスタートできるように作成されたオリジナル解説冊子です。初年次セミナー用の副読本として、2016年3月に初めて作成され、その後改訂が重ねられています。前半では、文章を読むこと、他者とディスカッションすること、プレゼンテーションをすること、文章を書くこと、大学とのつながり方という5つの項目を取り上げて、コツを分かりやすく紹介しています。後半には、学生の皆さんのが自立して学びを深めていくけるように、長崎大学が用意している仕組みについて説明した資料が掲載されています。

知の対話

モジュール科目

現代的な課題となっているテーマを基に集められた授業科目群を「モジュール」と呼びます。長崎大学では、さまざまなテーマのモジュールが用意されており、全学モジュールと学部モジュールの2種類で構成されています。全学モジュールでは、各学部の学生がそれぞれの興味・関心に基づいてモジュールを選ぶことができます(現在、教養教育の充実のために、モジュール科目の一部見直しを検討しています)。



さまざま意見や
自らの主張を定める

情報を集めた上で 三言す

水産学部 初年次セミナー（一年次）

水産学部の一年次前期の「初年次セミナー」。教員ごとに学生が十人程度のグループに分けられ、大学での学びの基礎能力を身に付けています。山田明徳准教授の初年次セミナーでは、高校までの学習との違いに学生自らが気付くことを大切にしています。

最初に「鯨食について」といった大まかなテーマで自由にレポートを書いてもらいます。そして、その内容を学生同士で共有して読む中で、どういう書き方やまとめ方が良いのか、どんなレポートが人に読ませる内容なのかを考えもらいます。この時、こちらから明確な見本を見せることはしません。大学での学びの目標は、試験に受かることではなく、自分の能力を高めることです。答えるある与えられた課題に受け身で取り組むのではなく、主体的に考えるための意識改革が必要なのです」。

社会人としても問われる 読む・書く・伝える能力



経済学部 基礎ゼミ（二年次）

一年次と三年次の学修をつなぐ内容の「基礎ゼミ」は、経済学部二年次前期の講義。深浦厚之教授のゼミでは、レポート作成を通じて、自分の考えをまとめる基本的な能力を養います。

「レポートのテーマはさまざまです、例えば、経済学部のキヤツチコピーを考えたり、有名なお菓子コピーを考えたり、有名なお菓子

テーマについてのレポートをまとめるだけでなく、ゼミの学生同士で意見を交わしていく中でも、自分の考えがまとまります。



石場絢さん

最初は自分の考えをうまく文章にまとめられず苦労しましたが、ゼミのメンバーと一緒に琢磨していきました。

の製造工程やプロモーションを分析したり、私の専門分野に絡めてEUの金融政策に関する文献を扱うこともあります。共通して学生に求めるのは、自分なりの問題点を含んだレポートをまとめることです。ネットで調べたことをそのまま書くだけのレポートではなく、そこから一歩踏み込んで考えることが必要です」。

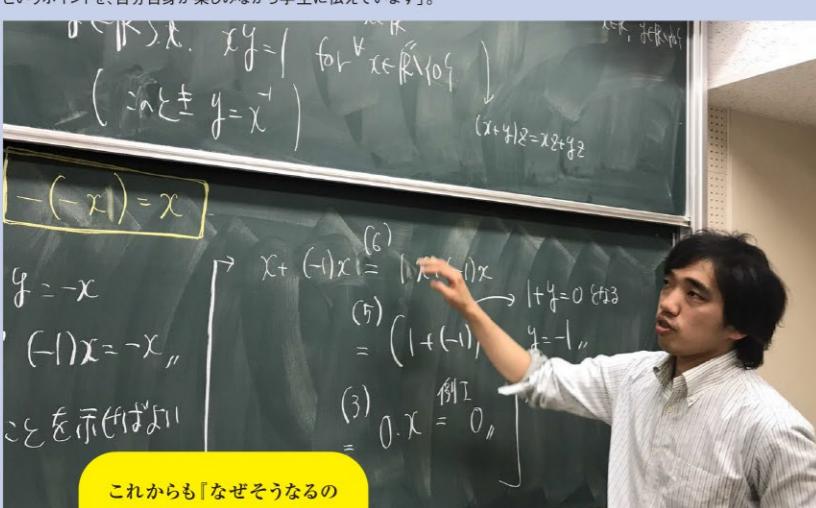
レポートをまとめる際に、心掛けておくべきことはありますか。

「問い合わせは主観的に、答えは客観的に」ということです。高校までの授業では、先生から与えられた共通

の課題で自分なりの考え方を述べる機会が多いと思います。しかし大学ではその逆で、自分の感性や経験が反映された問いと、データや史実に沿った説得力のある答えが求められます。これは社会に出てからも同じで、仕事相手や同僚、上司を説得する際に重要な考え方です。最終的に問われるのは、いわゆる「読み書きそろばん」の能力。きちんと文字を理解でき、論理的に考えたことを文章にまとめられる、そんな学生を企業も求めています」。

基礎ゼミを受講した石場絢さんは、「自分が何を伝えたいのか、伝えるためにどのように考え話を展開すればいいのか、大学に入つてから初めてちゃんと学べたという実感があります。一見地味なことのようですが、今後の研究活動や論文作成にも役立つと思っています」と話しており、学修の土台につながったそうです。

数学の背景を知る面白さを講義で伝える熊崎先生。「ここが面白い」というポイントを、自分自身が楽しみながら学生に伝えています。



これからも「なぜそうなるのか」という根本的な部分を自分自身で考える能力を伸ばしていきたいと思います。

高坂響さん

の課題で自分なりの考え方を述べる機会が多いと思います。しかし大学ではその逆で、自分の感性や経験が反映された問いと、データや史実に沿った説得力のある答えが求められます。これは社会に出てからも同じで、仕事相手や同僚、上司を説得する際に重要な考え方です。最終的に問われるのは、いわゆる「読み書きそろばん」の能力。きちんと文字を理解でき、論理的に考えたことを文章にまとめられる、そんな学生を企業も求めています」。

基礎ゼミを受講した高坂響さんは、「自分が何を伝えたいのか、伝えるためにどのように考え話を展開すればいいのか、大学に入つてから初めてちゃんと学べたという実感があります。一見地味なことのようですが、今後の研究活動や論文作成にも役立つと思っています」と話しており、学修の土台につながったそうです。

文献やデータを読み解く、
あらゆる専門分野で生かされるのがこの二つの力。
単純なようで奥が深いスキルであり、

さまざまなプログラムの中にその要素が盛り込まれています。
調査した内容を分かりやすく書き記して伝えるなど、

知の対話

水産学部 初年次セミナー（一年次）

レポート作成後は、テーマに対して賛成・反対のグループに分かれ、それぞれ相手を説得するためのプレゼンテーションを実施する

「説得力のある主張には裏付けとなる情報が必要ですし、相手の主張も知らなければ説得することはできません。事前にさまざまな情報を調べて、グループ内でも意見を交わしていくことで、初めて自分のスタンスが明確になつていくのです」。

実際に山田先生の講義を受講した竹尾百音さん（三年）は、「情報の確実性を高めるために学術論文や公共団体の発表内容を参考にデータや情報を事実として捉えるだけではなく、そこに疑問を持つて主体的に調べ、知識を深めていきたいです。



竹尾百音さん



時間がかかるでも学生同士の気付きを重視。今年度はオンラインでの学修となりましたが、一方的に教えるのではなく、お互いに意見を交わします。



山田明徳 准教授

しましたが、最初は自分の意見を組み立てるのに苦戦しました。年次が上がるほどレポートや研究で考えをまとめる機会も増えるので、初年次セミナーで学んだ情報の読み取り方が役立っています」とのこと。自ら考えて疑問を持つことが、大学ならではの学びの本質につながっています。

しましたが、最初は自分の意見を組み立てるのに苦戦しました。年次が上がるほどレポートや研究で考えをまとめる機会も増えるので、初年次セミナーで学んだ情報の読み取り方が役立っています」とのこと。自ら考えて疑問を持つことが、大学ならではの学びの本質につながっています。

問題を解くだけではない 仕組みを読み解く面白さ

教育学部 解析学Ⅲ（三年次）

教育学部の「解析学Ⅲ」は、中学校教育コース数学専攻の学生が三年次で受ける講義です。微分方

程式を用いて関数の動きを計算する発展的な内容ですが、担当する熊崎耕太准教授は、数学ならではの面白さと奥深さを伝えようとしています。

「微分方程式の特徴は、答えが値ではなく関数であり、さらにその関数をグラフとして視覚化できる

ことです。方程式とグラフの動きを比較することで、さまざまな手掛けりを読み解くことができます。しかし計算の複雑さから苦戦する学生も多くて……なるべく面白い講義を心掛けています」。



熊崎耕太 准教授

の課題で自分なりの考え方を述べる機会が多いと思います。しかし大学ではその逆で、自分の感性や経験が反映された問いと、データや史実に沿った説得力のある答えが求められます。これは社会に出てからも同じで、仕事相手や同僚、上司を説得する際に重要な考え方です。最終的に問われるのは、いわゆる「読み書きそろばん」の能力。きちんと文字を理解でき、論理的に考えたことを文章にまとめられる、そんな学生を企業も求めています」。

基礎ゼミを受講した高坂響さんは、「自分が何を伝えたいのか、伝えるためにどのように考え話を展開すればいいのか、大学に入つてから初めてちゃんと学べたという実感があります。一見地

面にも数学が深く関わっています。また、微分方程式では、時間や数、位置など、ものの動きを表現できるので、自由にテーマを設定できます。身近な日常とつながることが面白さの一つですね。そして、高校までに習う運動方程式や等速直線運動も、実は微分方程式で解説できるんです。これまで「なぜ」を学び理解することでお題目を素早く解くだけではない、

少し違う角度での数学の奥深い魅力が感じられるのではないでしょうか。学生たちには将来、教科書をなぞるだけではなく、いろいろな方向から数学の魅力を伝えてほしいと思います」。

文化財を支える仕組みから まちづくりを探る

工学部 エンジニアリングデザイン(三年次)

構造工学とは、さまざまな構造物を造るために必要な考え方や技術などを形成する学問体系の一つ。構造工学コースではその観点から、教会や原爆遺跡など、長崎にある文化財を観光資源として保存および活用する上での課題や対策の検討を通じてデザイン能力を身に付ける「エンジニアリングデザイン」を、三年次に履修します。佐々木謙二准教授のお話で、「対象となる構造物は学生がグループ単位で考え、県や市といつ



2016年度に城山小学校被爆校舎の保存について取り組んだグループ。学内での高評価を受けて、原爆資料館の館長およびスタッフの皆さんにも案を発表する機会を得ることができました。

自ら動くことを通して 野外調査の手法を身に付ける

環境科学部 環境フィールド演習I(一年次)・II(二年次)



朝倉宏 准教授

環境科学部では、入学直後から環境問題の現場を体験できる場が準備されています。その一環が「環境フィールドI・II」。まず演習Iでは、ごみ処理場・最終処分場、浄水場、下水処理場を見学します。担当の朝倉宏准教授にお話を伺いました。「例えば、ごみの焼却は、明治時代にごみの排出量が増大し、コレラがまん延したために始まった処理方法です。つまり、命を守る施設だということです。このような各施設の社会的意義や原理を理解するための講義を、見学前に三回行います。講義では、座学ですべて伝授するのではなく、個人にテーマを割り当て

プラスチックごみに混ざっている不燃物は、人の手で仕分けられることを知りショックでした。出す側でしっかり分別する必要性を痛感しました。

高山大輝さん

現実の課題解決に向けて実務に近い視点で取り組んだことは、将来に役立つ有意義な経験になると思っています。



本多南菜さん



現地調査を踏まえ課題解決策を検討。さまざまな制約条件がある中で、実現可能な内容に落とし込んでいく難しさも実感します。

現地に足を運び 全身で その人と向き合う



多文化社会学部 リサーチ入門(二年次)・リサーチ基礎(二年次)

一年次から、知識やスキルを少しづつ積み上げていくためのフィールドワーク関連科目が充実している多文化社会学部。フィールドワークは単なる見学ではなく、その前に訓練が必要だからです。二〇一八年の「リサーチ入門」および二〇一九年の「リサーチ基礎(インタビュー・参与観察)」の科目責任者を務めた増田研准教授のお話です。「明らかにすべき

の出来栄えにもつながります」。昨年よりリサーチ基礎(インタビュー・参与観察)では、長崎市の外海地区から西海市にエリアを絞り、学生自ら課題を見つけて調査。杉岡恭介さん(三年)は、「昨年の調査に参加しました。「西海市雪浦地区に雪浦くんちという祭りがあります。全国で少子化や人口流出によって祭礼の維持が困難になる中、形を変えながらも継承されており、継承と変容、地域における役割をテーマに調査しました。先行研究などの文献調査だけでなく、五人の方へのインタビューも行いました。インタビューが進むにつれ、消滅の危機と新たな継承者の登場」というドラマのような展開を経て現在の姿へ

の出来栄えにもつながります」。

「一つながら物語が語られる様子は、奇跡を目の当たりにしているようでした。自分たちで問い合わせるためには何をすればいいのか、インタビューの際にどのような質問をすればいいのか、事前準備が重要であることを学びました」。



昨年の雪浦くんちの様子。

訪れた土地に住む人々の話を聞き、感動をレポートに記述できることがフィールドワークの魅力だと思います。



杉岡恭介さん

研究テーマに基づいてレポートや論文をまとめるまでの過程には、フィールドワークという手法があります。課題を見つける力、調査する力、解決する力、有意義な研究成果を得るために必要なさまざまな力を実社会という現場で養うプログラムに注目します。



2016年と2017年にはアフリカのザンジバルで海外フィールドワーク実習を実施。帰国後は報告書を刊行したほか、写真展なども行いました。

館ならではの特徴は、その
膨大な情報量です。新聞や
雑誌、データベースなど、さ
まざまな情報に包括的にアクセスす
ることができます。図書館の上手な
活用術について、中央図書館（学術
情報管理課）の浦さやかさんに伺い
ました。「とにかく情報量が多い図
書館ですが、検索や資料の閲覧方法
を把握することで、より効率よく利
用できます。また、学外から図書館
ホームページを通じてアクセスでき
る情報も充実しています」。図書館
は学部ごとの専門性にも特化してい
ます。坂本キャンパスにある医学分
館は、医学・歯学・薬学・保健学な
どに関する書籍を中心に所蔵し、近
代医学史料展示室には貴重な学術書
などが収蔵されています。また、片
瀬キャンパスにある経済学部分館
は、経済学関係の書籍や雑誌などを
中心に所蔵。長崎大学経済学部の前
身校で長年教授を務めた武藤長蔵博
士が集めた貴重な資料や絵画が残さ
れた武藤文庫もあります。特色ある
図書館の資料を、学生は興味のある
分野に合わせて活用しています。

資料の場所や
図書館の使い方など
何気ない疑問を相談できる窓口

レファレンスサービス



図書館資料について何でも気軽に質問することができる。
思いも寄らない資料が見つかるかもしれません。

目当ての書籍や資料が見つからない、関連する情報の調べ方が
分からない。そんな時は、図書館職員のいるカウンターで相談しましょ
う。直接相談できるレファレンスサービスは図書館ならでは。研究や講
義に関連する書籍や情報を入手する手伝いをしてくれます。検索シ
ステムや施設利用に関する情報は「図書館ガイダンス」を開催して解
説。図書館ホームページにはガイダンスのテキストが公開されている
ので、特に入学したばかりの学生の役に立ちます。

貴重な古写真や
学生の制作物を展示した
新たな視点を得られる場所

ギャラリースペース

中央図書館1階にあるギャラリースペースでは、所蔵している古写真などのパネルや、学生
による展示物が公開されています。開館時間中はいつでも見学できるので、勉強の合間や
ちょっとした空き時間に立ち寄ると新しい発見
があるかもしれません。過去には、書道部、華道
部、写真部などが作品を展示。学部の講義による
発表やギャラリートークも行われました。



企画展は不定期で開催されます。展示の予定はホームページで確認できます。

電子ブック・電子ジャーナル・ データベース



図書館では、紙の資料に触れられるほか、書籍や論文を電子化した膨
大なデータにアクセスすることもできます。蔵書検索システム(OPAC)は
もちろん、電子ブックや電子ジャーナル、さまざまな情報を蓄積したデータ
ベースも利用可能。検索機能を活用することで必要な情報を素早く入手
でき、大きな専門書の持ち運びにも困りません。図書館内の端末からだけ
でなく、自宅や大学構内からもパソコンやスマートフォンを使って情報を得
られるサービスも充実しています。

レポートや論文作成においては多くの参考文献や論文が必要になります。電子化された情報の活用が求められます。

図書館

知の拠点

さまざまな情報が集まる図書館はまさに「知の拠点」。

書籍の貸し出しだけではなく、オンラインでのサービスやラーニングコモンズなど、
読むこと以外にも役立つ機能が充実しています。

うまく活用すれば、自分の考えを深めることができます。

必要な情報を
スムーズに閲覧・入手できる
充実したオンライン検索システム



一部の専門書や雑誌が収められた書庫を利用するには入庫手続きが必要。国内外の雑誌が保管されている
ので、参考にしたい論文を探すのに役立ちます。

図書館内で
自由に語り合いながら
アウトプットする共有空間

ラーニングコモンズ



図書館に、学生同士が教え合い、学び合える空間を。そんな思いで設
けられた中央図書館1階の大きなスペースが「ラーニングコモンズ」。予約
なしで自由に使えるスペースで、他の階と異なり会話はOK。グループディ
スカッションやプレゼンテーションの練習にも利用でき、机や椅子も自由に
動かせます。また、予約制のグループ学習室はホワイトボードや大型ディ
スプレイなどの設備も充実。こうした空間で学生同士が意見を交わすことで、多様な視点を取り入れて学修を深めることができます。

図書館は、書籍の貸し
出しにとどまらない、
総合的な機能を備え
ています。活用方法で
分からないことがあ
れば、気軽に何でもご相
談ください。



中央図書館(学術情報管理課)
浦さやかさん

学びのヒントになる
新書や一般図書はもちろん
専門的な書籍や雑誌も保管

参考図書・書庫資料

図書館にはさまざまな書籍がそろっており、それ
らを活用してレポート作成や研究に役立てること
ができます。読みやすいサイズで特定分野のまと
まった知見を得られる新書や、長崎での学修に深
く関わる郷土資料、また新聞記事や雑誌、専門書
も閲覧することで、より幅広い知識や情報を得られ
ます。



外海地区の大中尾棚田の田植えも手伝いました。
報班になり、全体を客観的に捉えるなど、



「ながさき100km徒歩の旅」右から2人目が山中さん。



保育園の夏祭りのお手伝いの様子。

ピア・サポート「ふらっぴあ！」

大学生活の「困った」は
先輩にお尋ね

大学生活の疑問や悩みに応える窓口は長崎大学にいぐつかあります。先輩学生が親身に相談に乗ってくれるのが「ふらっぴあ！」。「学生何でも相談室」の業務の一環として、現役長大学生が運営するボランティア団体です。例えば、履修登録で何を選べばいいのか分からぬなどを毎年行つてお、先輩ならではのスキルやノウハウを惜しげもなく伝授してくれます。サポートは現在五十一人。後輩の悩みについて一緒に考えることで、共感力や客観的な視点を鍛えるトレーニングにもなるといいます。現在、ツイッターの「質問箱」で、高校生からの質問も受け付けているのだそうです。

やってみゅーでスク

ボランティアならではの
とびきりの体験を!

ボランティアに特化して地域と大学を結び付ける役割を担っているのが「やってみゅーでスク」。学生ボランティア活動の専門組織を運営している大学は全国でも珍しいそうです。二〇〇七年度に始まり十三年目を迎えます。マネージャーの湯川典子さんのお話です。「現在登録している学生は二八九八人（昨年度実績）で過去最高。一方、ボランティアを提供する地域の組織（「応援団」と

呼んでいます）の数も二五五となりました。私どもの役割は、学生のボランティアを求める応援団からの情報を管理し、登録している学生に提供してマッチングを行うことで、近年は学生自主企画も活発になり、留学生の参加も増えています。高校生の頃は消極的だったたの餅つきをはじめとするイベントのお手伝いや、手のかかる棚田の田植えといった地域サポートの他に、キャンプと英会話を合体させた活動など、大学での学びが生きるものもあります。

百キロの道のりを歩く「ながさき100km徒步の旅」のサポートを二年連続で行いました。最初の年は子どもたちと一緒に歩いてゴー

ルの感動を共有しましたが、二年目は子どもたちの様子を保護者に伝える広

くつかあります。先輩学生が現役長大学生が運営するボランティア団体です。例えば、履修登録で何を選べばいいのか分からぬなどを毎年行つてお、先輩ならではのスキルやノウハウを惜しげもなく伝授してくれます。サポートは現在五十一人。後輩の悩みについて一緒に考えることで、共感力や客観的な視点を鍛えるトレーニングにもなるといいます。現在、ツイッターの「質問箱」で、高校生からの質問も受け付けているのだそうです。

役割が違えば視点も動きも違つてくることを体感しました。スタッフの方々の謙虚な姿勢にも学ばされ、大学ともバイトとも違うボランティアならではの経験が人生を豊かにしてくれました。勇気を出して一步を踏み出してください。

地域の人たちと一緒に活動できる縁JOYプロジェクトの「満月BAR」は、ベイエリアなどで地域交流の場を創出するイベントで、評判も上々でした。

地域の皆さんが持っているのが新生入歓迎冊子「長大の歩き方」。学部クオーター別時間割や持ち物、留学やアルバイト経験の本音、学生証でできることなど、ニーズに即したアドバイスが掲載されています。

スタッフの皆さんのが持っているのが新生入歓迎冊子「長大の歩き方」。学部クオーター別時間割や持ち物、留学やアルバイト経験の本音、学生証でできることなど、ニーズに即したアドバイスが掲載されています。

大学院生が図書館内の専門カウンターに待機し、学部学生の学びに関する相談に乗つてくれるのがラーニングサポート制度。レポートの書き方や図書館の上手な利用方法といった基礎的な相談から進学や就活の悩みに至るまでを受け止めてくれます。現在、理系・文系の院生三人が登録しており、開催時には館内アナウンスで自ら得意分野の告知も行うとあって、ジャンルが合えばかなり突っ込んだ質問にも柔軟に対応してくれます。独学でつらくなつたら頼りになる、駆け込み寺のような存在です。

大学院生が図書館で後輩の相談をサポート

まだまだある

知の対話を サポートする仕組み

その他、長崎大学には学生の学びやコミュニケーション力をサポートするさまざまなシステムがあります。

上手に活用して世界を広げる学生も多いのです。



地域の人たちと一緒に活動できる縁JOYプロジェクトの「満月BAR」は、ベイエリアなどで地域交流の場を創出するイベントで、評判も上々でした。

キャリアセンター

経験も交流も
本人のやる気次第

昨

年十月に新設されたキャリアセンターは、「キャリア生き方」と定義し、学生と社会をつなぐプラットフォームの役割を果たしています。「キャリア就職活動」は、もう昔の話。

一年次からさまざまな経験を積み、充実した学生生活を送ることで、就活だけではなく卒業後のキャリアの糧にできます。そのためには、勉学で身に付けた「読む、書く、話す」などの基本スキルを実践的に使う場が必要とされます。例えば、バスツアーで県内企業の職場を見学し社長さんや社員さんとお話をしても、あるいは社会人と一緒に地域交流イベントを企画・運営してみると、いったん多彩な取り組みを積み重ねることが大切です。最終的には、「自分

か、目標を持つてチャレンジする

や知見

は違つきますよ」と

は、キャリアアドバイザーの境宗徳さん。学部・年次を問わずすべての学生がキャリアセンターを利用でき、機会は広く平等に開かれています。

かで、自分の棚の品ぞろえ（経験や知識）は違つきますよ」と

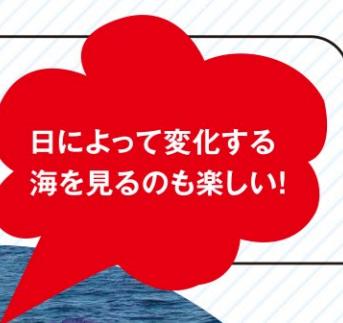
は、キャリアアドバイザーの境宗徳さん。学部・年次を問わずすべての学生がキャリアセンターを利用でき、機会は広く平等に開かれています。

秋田県で開催された能代宇宙イベントにて模擬人工衛星を投下している様子。



サークルの星!

キラッと光るサークルや活躍する学生をクローズアップ!



ロケットサークル

スキルを生かして一つのモノを作り上げる

ハイブリッドロケットと呼ばれるロケットの製作目標に、現在は市販の固体燃料を使って打ち上げるモデルロケットや、「CanSat(カンサツ)

ト)」と呼ばれる小型惑星探査機を製作。設計から、製作、加工、プログラムの作成、安全管理や打ち上げまで、すべて学生が主体となって行っています。必要なソフトに関する知識は、上位年次の先輩が勉強会を開くなどして後輩に伝授。また、小学生向けのロケット教室も不定期で実施しています。「メンバーそれぞれがスキルを生かして、一つのモノを作り上げる点に魅力を感じます。だから作ったものが動いた時は感動します。昨年行われた能



ロケットのボディを制作するための素材を加工中。



自分の手で作り上げたものが動き出す瞬間は感動的です!

代宇宙イベントでは、初めて CanSatが動きました。動いたチームは数少なかったのでうれしかったです」と代表の安河内貴彬さん(工学部4年)。メンバーは工学部の学生を中心ですが、他学部からの参加もOKとのこと。「座学だけでは学べないモノ作りを実践できる場です。探究心や、何かを作ることを楽しいと思う気持ちを、ぜひロケットサークルで發揮してください!」。

活動場所／工学部1階マシンワークショップ
活動日／毎週月曜
メンバー数／17人

Jackpot

笑顔を引き出すパフォーマンス

ボールや輪などの道具を空中に投げる曲芸「ジャグリング」の練習を楽しんでいます。練習成果は、Jackpot主



メンバーはほぼ全学部から所属。「多

趣味な人が多いです」と渡辺さん。いよいよとした雰囲気です。ぜひ遊びに来てください」。できなかつことができるようになる、成果が分かりやすい点も魅力の一つ。パフォーマンスを見てくれた人たちの喜ぶ笑顔にも、やりがいを感じるそうです。

活動場所／中部講堂前
活動日／毎週水曜・日曜
メンバー数／25人

長崎大学女子端艇部

力を合わせて大海原に漕ぎ出そう

女子端艇(カッター)は、漕ぎ手6人、艇長、艇指揮を合わせた8人で1kmのタイムを競う競技です。メンバーは水産学部生で構成されており、船や海が好きな人にとって魅力的な部活。主に毎年11月の新人戦と5月の全日本大会に向けて練習しています。2019年は、全日本カッター競技大会で準優勝、西日本新人カッター競技大会で優勝と



個性豊かなメンバーは先輩・後輩みんな仲良し。勉強も頑張っています。



体力がついて健康的な体を維持できるほか、海峡や船の仕組みなどの知識も身に付きます。

活動場所／時津港
活動日／毎週木曜・金曜・土曜
メンバー数／10人

さまざまな学部からメンバーが所属。新歓ドライブ、忘年会、成人祝いなど、イベントも充実しています。

長崎大学器械体操部

憧れのあの技にも挑戦できる!

実際の競技用器具を使いながら、床、跳馬、鉄棒、段違い平行棒で習得したい技を練習。現役部員は2年生と3年生を合わせて14人ですが、4年生や大学院生などたくさんのOBも参加するため、真剣な中でもぎやかな雰囲気なのだと。部長の成平幸美さん(教育学部3年)のお話です。「部員のほとん



いる方は、ぜひ一度体育館に来てください。高校生の頃と比べると、大学では体を動かす機会が少なくなってくると思います。適度に運動したい、新しいことを始めたい、充実した大学生活を送りたいという方にもお勧めです。他大学との合同合宿などもあるので、交流の幅も広がりますよ」。

活動場所／総合体育館2階メインフロア
活動日／毎週月曜・木曜(16時半～20時)
土曜(15時半～20時)
メンバー数／14人

※取材時期は、学生団体の活動については禁止していました。

福祉のイメージを変える 生き方に寄り添つた事業

株式会社フォーオールプロダクト 代表取締役

石丸徹郎



ありのままの
長所を生かし
働く仕組みを
一からつくる

淡く温かみのある色使いと、
力の抜けた軽やかな線。特徴的なイラストが描かれたポーチや小物入れなどを、雑貨店で見かけたことがある人もいるのではないかでしょうか。そうしたオリジナル商品の企画から開発、生産、販売までを一貫して手掛けたのが、長崎大学経済学部出身の石丸徹郎さんが佐世保市で運営する事業所のスタッフたち。石丸さんは、障がい者就労支援事業に取り組む会社「フォーオールプロダクト」と関連する

事業所の代表を務めています。「会社は訓練事業所という位置付けですが、特定の業務だけを障がいのあるスタッフで担当するのでなく、プロジェクトごとにチームを編成して、幅広い業務を分担しながら行っています。大切にしているのは、働き方や仕事の生み出し方を工夫すること。最初に本人の得意なことを丁寧に聞き取り、仕事として成り立つ仕組みをみなでつくり出します。そこで結果が出れば成功体験にもつながりますし、挑戦のハードルが下がることで活動の幅がどんどん広がっていきます」。

一般的には賃金の差がほとんどない時給制の事業所が多数を占めますが、石丸さんの事業所では、技術の向上に応じて賃金が上がり評価制度を導入しているそうですね。商品を販売する際も、福祉事業という部分を前に出さず、純粋なモノとしてのデザインや使い勝手を打ち出しているようになります。仕事を通じての安定した収入は、周囲に認めてもらう要因にもなりますし、経済的に自立できれば今後の進路の選択肢も増えます。そうした環境を整えるために、開発した商品のプロデュースや企業コラボを請け負う会社も設立しました」。

今年は、コーヒーショップチーンのコメダ珈琲店で販売されている豆菓子のパッケージに、事業所でデザイン活動をされている方の作品が選ばれました。一般的には賃金の差がほとんどない時給制の事業所が多数を占めますが、石丸さんの事業所では、技術の向上に応じて賃金が上がり評価制度を導入しているそうですね。商品を販売する際も、福祉事業という部分を前に出さず、純粋なモノとしてのデザインや使い勝手を打ち出しているようになります。



商品は多種多様で、
どれもつくり手の個性と高い技術が
感じられるデザインばかり。

自分らしい
働き方を尊重する
クリエイティブな
福祉事業

経済学部時代は、自由な時間にさまざまなアルバイトをしていましたですね。

「世の中にどんな仕事があるのか知りたくて経済学部を選んだこともあり、お寿司屋さん、ボーリング場、パチンコ店など、講義以外の時間はとにかくいろいろなアルバイトをしました。ただ、当時は進路が不明確で、起業に対しても高いハードルを感じていました。ですから、稼いだお金は将来の事

業資金にするわけでもなく、大学生らしく遊んで使いましたね。いろいろな職場を経験し、物怖じせず人と話せるようになりました」。

卒業後は一般企業に就職するも体調を崩して退職。そこから起業して個人事業を始めたのですが、福祉事業との出会いについて聞かせてください。

「福岡でイベント制作会社を営んでいた三十歳の頃、引きこもりの子どもを支援するプロジェクトに半年間加わったことがきっかけです。自分にとって福祉の仕事は、とてもクリエイティブだと感じたんですよ。その人の人生や生き方に寄り添い、仕事を一緒に生み出すには、土台となる仕組み

からつくり上げる必要があります。そして目の前の人�が徐々に活躍していく姿を見ると、なんだか本質的なところをグッとつかまれたような感覚があつて。そうした経験から、地元の佐世保市で一から福祉事業の会社をスタートさせました」。



いしまるてつろう
長崎県佐世保市出身。
長崎大学経済学部卒業。2011年に障がい者就労支援事業を行う株式会社フォーオールプロダクトを設立。その後もさまざまな事業所や関連会社の運営に携わり、障がいのある方一人一人に合わせた働き方を生み出している。

その人のありのままを認めるだけでなく、社会で生き抜く力を育て、広げていく場所。そこには常識にとらわれない柔軟な発想で仕組みを考える石丸さんの視点と、周りを巻き込むあたたかな人柄がありました。

長崎大学で行われる研究の一端を、研究者が自らの言葉で語るコーナー。今後につながる研究の“芽”をご紹介します。

身近かつ謎多き動物 昆虫の不思議を解明する

地球上で最も繁栄している動物は我々ヒトではなく、昆虫です。まだ名前がない種も含めると百万種を超えるほどで、動物界の七十～八十パーセントを占めるといわれています。例えば、日常生活で十四匹の動物に遭遇したとすると、そのうちの七、八匹は昆虫ということになります。これほど身近な動物なので、子どもが自然への興味・関心を最初に持つ存在といつても過言ではありません。病気を媒介する力やハエなどの衛生害虫、農作物を食べる農業害虫、あるいはカイコ（絹糸）やミツバチ（蜂蜜）などの益虫については、人類が健康で豊かな暮らしを営む上で重要なため、古くから研究がなされてきました。一方、人類と直接の関わりがない昆虫の研究は遅れています。逆に考えると、謎が数多く残されています。

私は、人類とは直接の関わりがない昆虫を対象に研究を行ってきました。どこで何を食べて暮らし、いつどのようにオ

スとメスが出会って繁殖に至るなどを調べています。学問分野としては生態学という、生物とその周りの環境との関係を研究する分野になります。特に、行動の究極要因を探る行動生態学あるいは進化生態学という分野を専門としています。主に研究対象としているのは、タガメやコオイムシ、ゲンゴロウといった水生昆虫です。

さて、長崎県は全国で最も島が多い県です。島ごとに生息している昆虫の種類が異なっていたり、同じ種でも島ごとに違った見られたりと、生態学の研究を行う上で魅力的な県でもあります。私が教員として長崎大学に来て漠然と考えたことは、島の自然に着目した研究に取り組んでみようということでした。

二〇一四年、五島列島の福江島に調査に行つた際に、他の地域で失われてしまつた素晴らしい生態系が残っている場所があることを知りました。しかし、そこには生態系を壊すことが問題視されていました。

第四の点滅タイプとして 五島列島型と命名

ホタルは初夏に夜の川辺をゆっくりと光りながら飛ぶ昆虫で、昔から日本人に親しまれてきました。この光の点滅によつて個体間で交信をし、オスとメスが出会いうと交尾をします。一般にホタルといえば、ゲンジボタルのことを指します。本種は本州から九州に分布する日本固有種です。これまでに行われていた研究から、日本語にも方言があるように、地域によって光り方（点滅速度）が異なることがあります。

私が、幼少期にゲンジボタルをよく採集しては虫かごに入れて夜な夜な眺めていました。その時に見ていたゲンジボタルは、一秒に一回点滅する西日本型です。脳裏に刻まれていた西日本型の点滅速度と、福江島で見掛けたホタルの点滅速度があまりにも違つていました。これまでに見たことがなかつた、一秒に一回点滅するホタルの存在を認識した瞬間でした。

全国のゲンジボタルを調べた論文を読んだところ、五島列島では調査されていないことを知りました。ホタル初心者の私でしたが、ホタル研究者の川野敬介博士（豊田ホタルの里ミュージアム）の協力の下、長崎県本土と離島を含めた現地での標本の収集と点滅速度の調査を行うことにしました。結果、二〇一七年度は、当時四年生だった沼田郁さんの卒業研究で取り組んでもらいました。結局、二〇一六年からの三年で、長崎県外も含めた約四十カ所にわたる調査から、一秒に一回点滅するゲンジボタル

の分布は、五島列島（福江島、若松島、中通島、宇久島）でのみ確認されると結論付け（左上図）、論文を公表しました。今回発見した一秒に一回点滅するゲンジボタルが五島列島にしか分布しないことから、東日本型、西日本型、中間型に続く第四の点滅タイプとして「五島列島型」と名付けました。

かつて、「ホタルを守る＝放流をする」と考える時代がありました。その地域のホタルであればよいのですが、他の地域から持つてきたホタルの放流は、国内外來種となります。その地域の環境で何年という時間をかけて独自に進化したホタルであればよいのですが、他の地域（その地域特有の遺伝子を持つた）性質は、他の地域のホタルと交雑することで簡単に失われてしまいます。五島列島型ゲンジボタルは、まさしく五島列島でしか見られない自然遺産です。この自然遺産を貴重な存在として長崎の人々が守り、後世へとつないでほしいと願い、「五島列島型」という名前にしました。なぜ五島列島では一秒に一回なのか。この謎には、五島列島の環境や地史的な要因が関係しているのでしょうか。五島列島は温暖な地域なので、そのような環境だからこそ国内で最も早い点滅タイプが進化したのかもしれません。今後も五島列島型ゲンジボタルが誕生した背景や、別の昆虫も含めた島の自然に関する研究を取り組んでいくつもりです。

島の豊かな自然を 後世へつなぐために

Text by OHBA Shin-ya



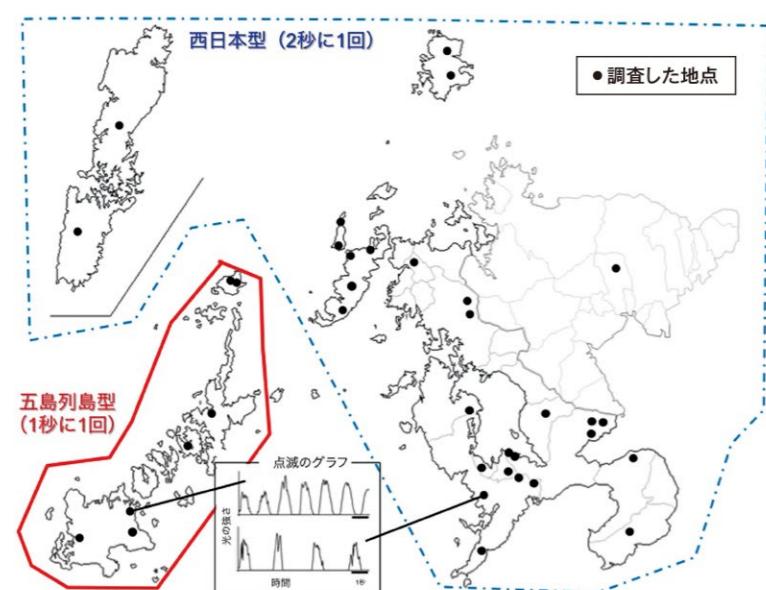
2020年5月12日、長崎県西彼杵郡長与町三根郷にて確認された西日本型ゲンジボタルのオス。



大庭伸也 准教授

長崎大学人文社会科学研究科准教授。二〇〇二年玉川大学農学部卒業。二〇〇四年愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、二〇〇七年岡山大学大学院自然科学研究科博士課程修了。博士(学術)取得。岡山大学大学院環境学研究科博士研究員、長崎大学熱帯医学研究所講師研究機関研究員、日本学術振興会特別研究員PD（京都大学生生態学研究センター）を経て、二〇一二年より現職。放送大学非常勤講師を兼任。専門分野は昆蟲生態学、行動生態学、保全生態学。

五島列島に分布 一秒に一回点滅する ゲンジボタルを発見



長崎県内のゲンジボタル点滅調査

長大生の未来を支える

西遊基金

ご支援の
お願い

「西遊基金」は、長崎大学が出島を介した「勉学の地」としての誇りと「進取の精神」を受け継ぎ、地域の持続的発展から地球規模の課題を解決するための傑出した人材育成を目指し、本学独自の修学支援、教育・研究の幅広い支援を目的として開設した基金です。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

長崎大学西遊基金



Nagasaki University Fund
Saiyu Kikin



寄附の
お申込み等は
こちらから



長崎大学 西遊基金 検索

長崎大学
広報戦略本部 校友会・基金室
〒852-8521
長崎県長崎市文教町1-14
TEL.095-819-2976
FAX.095-819-2156
nukikin@ml.nagasaki-u.ac.jp
<https://www.nukikin.jimdo.com>

次なる革新を
ここから。



NFEC

国立大学法人長崎大学 研究開発推進機構

FFGアントレプレナーシップセンター

FFGアントレプレナーシップセンターでは、
次世代のアントレプレナー人材の育成を目指し、
学部生・院生向け教育プログラム、社会人向け履修証明プログラム、
研究者向けインキュベーションプログラムを提供します。



Choho
長崎大学広報誌
[チョーホー]

編集後記

本来なら高校生が学生や教員と交わり、次年度に向けて決意を新たにするオープンキャンパスの時期ですが、新型コロナウイルス感染症への対応のため、今年度は中止となりました。ただし、Informationコーナーでご案内したとおり、インターネットを使ったバーチャル・オープンキャンパスが開催されます。ぜひ参加いただき、長崎大学に学ぶ学生や教員、教育や研究の内容、教室や図書館などに触れてみてください。

今号では、長崎大学における「知の対話」を特集のテーマに据えました。高校と大学における学びの違いからスタートし、本学が提供する膨大な数の講義の一部ですが、大学案内のパンフレットだけではわからない知の対話の現場を、教員や学生が語りました。「知との対話」ではなく「知の対話」というテーマを設定したのは、今は高校生のあなた自身が、大学では、他の学生や教員などの仲間と新しい知を生み出す主役となって欲しいという想いからです。長崎大学という「知の対話」の舞台に、在学生や教職員と一緒に立ちませんか？（山口純哉）

[編集・発行] Choho企画編集会議

編集長
山口 純哉 経済学部 准教授

副編集長
山田 明徳 水産・環境科学総合研究科 准教授
當山 明華 大学教育イノベーションセンター 助教

編集委員
原田走一郎 多文化社会学部 准教授
牧野 一穂 教育学部 准教授
友澤 悠季 水産・環境科学総合研究科 准教授
弦本 敏行 医歯薬学総合研究科 教授
安武 敦子 工学研究科 教授
馬越 啓介 工学研究科 教授
田中 宏智 学生支援部学生支援課長
宮 一則 広報戦略本部長 教授
松井 史郎 広報戦略副本部長 教授
本田 靖幸 広報戦略本部 課長
北島有佳子 広報戦略本部 主査
向井 愛 広報戦略本部 主任
坂本 道亮 広報戦略本部 主任
北村 春香 広報戦略本部

大口 尚子 編集
川良 真理 編集
藤本 明宏 編集
三浦 秀樹 デザイン

TEL.095-819-2007
FAX.095-819-2156

✉ www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

Choho (チョーホー) Vol.72
2020年7月1日発行

Choho
アンケート
クイズ



Information

令和2年度 長崎大学 バーチャル・オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスについて、
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のた
め、開催の中止を受験生の入試情報サイト
にてお知らせしておりました。

その代替措置として、7月上旬頃に受験
生の入試情報サイト上にて「バーチャル・
オープンキャンパス」を実施いたします。

詳細については、決定次第、受験生の入
試情報サイトでお知らせいたします。

コンテンツ(予定)

長崎大学をバーチャル散歩

- ・学食人気メニューランキング
- ・片淵キャンパス
- ・坂本キャンパス

各学部紹介

- ・各学部の“ココがスゴイ！”をチェック
- ・学部案内ムービー

長崎大学 受験生の入試情報サイトの「オープンキャンパス」からご覧いただけます。

※公開は7月上旬を予定しています。

※内容は変更する可能性がありますので、ご了承ください。

※画面写真はイメージです。

キャンパスライフ

- ・学食人気メニューランキング
- ・附属図書館ツアー
- ・部活&サークル情報
- ・キャリアセンターへ行こう
- ・一人暮らしのお部屋探見
- ・「留学したい」を応援します
- ・いざというときの 大学生活相談窓口

7月上旬
公開予定



プレゼントクイズ

長崎大学のスクールカラーは何色でしょう。ヒントは、宇宙や海
洋の広大さをイメージさせるカラーとして制定された色です。

- ① コスミックブルー ② コバルトグリーン ③ インディアンレッド

広報誌Chohoへのご意見・ご感想をお寄せください。プレゼントのご応募も以下より承ります。①クイズの答え②面白かった記事③誌面への意見・感想④職業
⑤年齢⑥氏名(ふりがな)⑦郵便番号⑧住所⑨電話番号を明記してください。
正解者の中から抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント!
◎ハガキ／〒851-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学広報戦略本部 宛
◎FAX 095-819-2156
◎メール kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp ◎またはQRコードから(左下)
◎応募締切日／2020年8月末
◎当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます

前号のクイズ

Q 長崎大学の魅力を発信
するブログの名称は？

答え／② ナガツナ

「長崎大学とつながる」をテーマに、
長崎大学と受験生をつなぐ情報を
届けているブログ。学生および教員
インタビュー、サークル紹介、入試情
報など、長崎大学の今の動きが分か
ります。随時更新中ですので、ぜひ
ご覧ください。

今回のプレゼント

今回は、令和元年度長崎県特産品新作展で農産加工品・酒・飲料品部門の最優秀賞を受賞した、おいしい果物を手軽に楽しめる飲むタイプのゼリー「シュシュ～っと飲むジユレ」が登場です。原料はすべて長崎県産にこだわり、それぞれ旬の時期に一番おいしい状態で収穫されたもの。着色料、保存料、香料は一切使用していません。また、飲み口を小さくすることで、女性や小さいお子様でも飲みやすいよう工夫されており、高齢者の補助食や乳児の離乳食としてもお薦めです。農産物本来の色や風味を、滑らかな喉越しと共にご堪能ください。正解者の中から抽選で5名に、8種類を1セットにしてプレゼントします。



シュシュ～っと飲むジユレ(130g × 8パック入)。
小売価格3,510円(税込)。

提供／有限会社シュシュ(大村市) TEL.0957-55-5288

長崎県物産館 TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/bussan_bild/